

(興奮状態による隔離室使用)パス  
 貴院における事例の治療・ケア手順

ご自由に区切ってご記入ください

時 間 軸

	入室時
検査・診断	
薬物療法	
身体療法	
精神療法	
看護ケア	
行動範囲・場所	
生活療法	
その他	
アウトカム	

## 対象病棟施設特性調査票

### 問 1. 病院の設立主体

ア. 国（大学は除く）	イ. 都道府県（大学は除く）	ウ. 大学
エ. その他公的病院	オ. 医療法人・財団法人	カ. その他（会社、個人）

### 問 2. 病院全体の病床数と対象病棟の病床数：

全体：	床	うち対象病棟：	床
-----	---	---------	---

### 問 3. 対象病棟の室数

隔離室	室	個室	室	2人室	室
3人室	室	4人室	室	5人室	室
6人室	室	7人室	室	8人室	室
9人室	室	10人室	室	11人以上室	室

### 問 4. 診療報酬における病棟の種類：

ア. 急性期治療病棟 1	イ. 急性期治療病棟 2	ウ. 精神科救急入院料病棟
--------------	--------------	---------------

### 問 5. 対象病棟のスタッフ数：

	常勤人数 (うち他病棟との兼任者数)
医師	人 (      人)
看護師	人 (      人)
準看護師	人 (      人)
看護助手	人 (      人)
	スタッフの有無 (他病棟との兼任も含む)
対象病棟に常に配置されている P S W (精神保健福祉士等) が	いる・いない
対象病棟に常に配置されている C P (臨床心理技術者) が	いる・いない

問 6. 対象病棟の患者様について：

	患者様の有無
服薬指導を受けている患者様が	いる（約 人）・いない
作業療法を受けている患者様が	いる（約 人）・いない

問 7. 2003 年 9 月の特定の 1 日における、対象病棟の年代別入院患者数：

診断	20 歳未満	20 歳以上 40 歳未満	40 歳以上 65 歳未満	65 歳以上
器質性精神障害圏（痴呆など）	人	人	人	人
精神作用物質による障害圏 （アルコール、覚醒剤など）	人	人	人	人
統合失調症圏	人	人	人	人
気分（感情）障害	人	人	人	人
神経症性障害、ストレス関連障 害及び身体表現性障害	人	人	人	人
成人の人格及び行動の障害	人	人	人	人
精神遅滞	人	人	人	人
てんかん	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

## 対象病棟施設特性調査票（国立療養所）

問1. 病院全体の病床数と対象病棟の病床数：

全体：	床	うち対象病棟：	床
-----	---	---------	---

問2. 対象病棟の室数

隔離室	室	個室	室	2人室	室
3人室	室	4人室	室	5人室	室
6人室	室	7人室	室	8人室	室
9人室	室	10人室	室	11人以上室	室

問3. 対象病棟のスタッフ数：

	常勤人数 (うち他病棟との兼任者数)
医師	人 ( 人)
看護師	人 ( 人)
準看護師	人 ( 人)
看護助手	人 ( 人)
	スタッフの有無 (他病棟との兼任も含む)
対象病棟に常に配置されている P S W (精神保健福祉士等) が	いる・いない
対象病棟に常に配置されている C P (臨床心理技術者) が	いる・いない

問4. 対象病棟の患者様について：

	患者様の有無
服薬指導を受けている患者様が	いる (約 人) ・ いない
作業療法を受けている患者様が	いる (約 人) ・ いない

問5. 2003年9月の特定の1日における、対象病棟の年代別入院患者数：

診断	20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上
器質性精神障害圏（痴呆など）	人	人	人	人
精神作用物質による障害圏 （アルコール、覚醒剤など）	人	人	人	人
統合失調症圏	人	人	人	人
気分（感情）障害	人	人	人	人
神経症性障害、ストレス関連障 害及び身体表現性障害	人	人	人	人
成人の人格及び行動の障害	人	人	人	人
精神遅滞	人	人	人	人
てんかん	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

## 対象病棟施設特性調査票（大学病院）

問1. 設立主体：

ア. 国立	イ. 私立	ウ. 公立
-------	-------	-------

問2. 病院全体の病床数と対象病棟の病床数：

全体：	床	うち対象病棟：	床
-----	---	---------	---

問3. 対象病棟の室数：

隔離室	室	個室	室	2人室	室
3人室	室	4人室	室	5人室	室
6人室	室	7人室	室	8人室	室
9人室	室	10人室	室	11人以上室	室

問4. 対象病棟のスタッフ数：

	常勤人数 (うち他病棟との兼任者数)
医師	人 ( 人)
看護師	人 ( 人)
準看護師	人 ( 人)
看護助手	人 ( 人)
	スタッフの有無 (他病棟との兼任も含む)
対象病棟に常に配置されている P S W (精神保健福祉士等) が	いる・いない
対象病棟に常に配置されている C P (臨床心理技術者) が	いる・いない

問5. 対象病棟の患者様について：

	患者様の有無
服薬指導を受けている患者様が	いる (約 人) ・ いない
作業療法を受けている患者様が	いる (約 人) ・ いない

問6. 2003年9月の特定の1日における、対象病棟の年代別入院患者数：

診断	20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上
器質性精神障害圏（痴呆など）	人	人	人	人
精神作用物質による障害圏 （アルコール、覚醒剤など）	人	人	人	人
統合失調症圏	人	人	人	人
気分（感情）障害	人	人	人	人
神経症性障害、ストレス関連障 害及び身体表現性障害	人	人	人	人
成人の人格及び行動の障害	人	人	人	人
精神遅滞	人	人	人	人
てんかん	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

## 医師アンケート調査票

問1. 診断の異なる患者を同一病棟内で治療することについて

ア. 賛成	イ. 反対	ウ. どちらともいえない
-------	-------	--------------

問2. 気分障害患者の治療環境を独立して設ける動きがあります。気分障害専門病棟を設立するとすれば、従来の病棟や他診断患者病棟と比較してどのような点の強化・充実が必要だと考えますか。治療上特に必要性が高いものを選択して下さい。(複数回答可)

ア. 現状より多くの医師数	イ. 現状より多くの看護職数
ウ. 現状より多くの作業療法士数	エ. 現状より多くのPSW数
オ. 現状より多くの薬剤師数	カ. 現状より多くの臨床心理技術職数
キ. 現状より多くの個室	ク. 内側から施錠可能な個室 (ｽﾊﾟｰｱｰｷｰはｽﾀｯﾌ所持)
ケ. 観察用カメラ・マイクのある個室	コ. 遮音・防音性のある個室
サ. 各病室へのトイレの設置	シ. 各病室へのシャワーの設置
ス. 現基準 (6.4m <sup>2</sup> /人) より広い面積	セ. トレーニングルームの設置
ソ. リラクゼーションルームの設置	タ. その他 ( )

問3. 気分障害の治療のうち、以下にあげるものについて、その重要性について1から5でご回答下さい。

	非常に重要	重要	どちらかといえば重要	あまり重要でない	不要
個人精神療法	1	2	3	4	5
集団精神療法	1	2	3	4	5
修正電気けいれん療法	1	2	3	4	5
光療法	1	2	3	4	5
薬剤指導	1	2	3	4	5
作業療法	1	2	3	4	5
心理検査	1	2	3	4	5
心理カウンセリング	1	2	3	4	5
その他 ( )					

問4. 気分障害患者の入院期間はどの程度必要であると考えますか。  
(現状ではなく理想的な期間をご回答下さい)

週間程度

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。



## FAX 票

調査票に記入される前に、9月19日(金)までにこのFAX票を調査事務局にFAXで送付してください。(FAX: 048-451-7711 伊藤宛)

■今回お送りした調査について、ご協力いただけるかお伺いします。(9月末締め切り)

1. 協力できる	2. 協力できない
----------	-----------

■「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟の在り方に関する研究」研究班では、今後、「薬剤処方の実態調査」を行う予定です。協力施設の皆様のご負担にならぬよう、細心の注意を払う所存です。

ご協力を検討してもよいとお考えの施設には、さらに詳しい調査説明書をお送りしますので、それを参考に、最終的にご協力いただけるかご判断いただきます。本研究の趣旨をお汲み取りいただき、ご協力をご検討いただきたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。どちらかに○をおつけください。

1. 調査協力を検討してもよい	2. 協力できない
-----------------	-----------

■ 貴院の名称、御担当者名、電話番号、FAX 番号をご記入ください。

病院名	
御担当者名	
お電話番号	
FAX 番号	

連絡先・送付先: 〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6 国立保健医療科学院 経営科学部 伊藤弘人・小山明日香 TEL: 048-458-6139 FAX: 048-451-7711
---

FAX票

(FAX:048-451-7711 伊藤宛)

9月19日(金)までにこのFAX票を調査事務局にFAXで送付してください。

大学名	
御担当者名	
お電話番号	
FAX番号	

問1. 精神科病床数

床
---

問2. 開放、閉鎖の病床数

開放病棟	床	うち一般個室	床	うち隔離室	床
閉鎖病棟	床	うち一般個室	床	うち隔離室	床

問3. 各都道府県の精神科救急システムに参与していますか。

はい ・ いいえ
----------

問4. 救急システム用の病床がありますか。

はい (          床) ・ いいえ
------------------------

問3に「はい」とお答えいただいた場合のみ、郵送の調査票一式にご記入ください。「いいえ」とお答えいただいた場合は、今回郵送させていただいた調査票は破棄していただいで結構です。

- 「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟の在り方に関する研究」研究班では、今後、「薬剤処方の実態調査」を行う予定です。協力施設の皆様のご負担にならぬよう、細心の注意を払う所存です。

ご協力を検討してもよいとお考えの施設には、さらに詳しい調査説明書をお送りしますので、それを参考に、最終的にご協力いただけるかご判断いただきます。本研究の趣旨をお汲み取りいただき、ご協力をご検討いただきたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。どちらかに○をおつけください。(救急システムに参与しているかどうかは問いません)

1. 調査協力を検討してもよい	2. 協力できない
-----------------	-----------

平成 15 年度厚生労働科学研究（障害保健福祉総合研究事業）報告書  
精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究班  
（樋口輝彦主任研究者）

千葉県市川市国府台 1-7-1 国立精神・神経センター国府台病院  
（樋口輝彦）

事務局担当：小山明日香、中西三春、沢村香苗